



南方現地と同盟

編輯局長兼
南方總局長
松本重治

南方現地には、同盟の爲すべきことが多い。これが三ヶ月にわたる私の南方出張から得た結論の一つであつた。無氣味な將來性を孕む北邊も大切であり、大東亞問題の中心としての支那も重要である。また總元縮めたる内地も、更に重要ではある。然し、滿洲國には、既に十餘年の歴史を誇る國通が、新しき體制を整へて益々本來の任務に邁進せんとして居り、支那ではわが北・中・南三總局の陣容が愈々鞏固ならんとしつつあり、また内地では、本社に移轉漸く實現して日本一の編輯室の整備も成り、社長以下三千の内地社員は文字通り總張り切りの現狀である。ただ南方現地を思ふとき、同盟として爲すべきことが餘りにも多いのを痛感せざるを得ない。現在既に、矢張り早やに南方の機構と陣容が擴張せられつつあるとはいへ、なほ更に、大々的の擴充を必要とする所以もここに在る。

現地で通信發行

從來、南方では、マニラを據點とするユー・ピー、シンガポールを中心とするロイテル及びパタピヤを本據とするアナド通信社の三者が、南方全域にわたり有力なる

通信網と無線施設とを有して、重慶の中央通信社と協力しつつ、夫々の立場から南方の全新聞社及び全放送局に對して、世界ニューズとともに各現地のニューズをも供給して居た。これらニューズの蒐集配給を通じ、彼等は南方地域は勿論、インド、重慶、濠洲のみならず、廣く世界に對して、敵性の宣傳放送を活躍にやつて居たのであつた。

南方の諸新聞は、民度その他の社會的條件に制約せられて、その經營規模が小さいため獨自の通信網を有したものは一つもなく、ニューズの供給については、すべてこれら三大通信社に徹底的に依存せざるを得ない有様であつた。然らば、皇軍が神速の裁定を終へた今日は如何？ 朝日、日日、讀賣等各紙及び同盟の南方進出は既に、相當程度なされてはゐるがその活動は、主として作戰報道と現地建設ニューズの内地への報道とに限られてゐる實狀である。勿論同盟だけは、現地に於けるその本來の報道任務も之を忘るることなく現に昭南は因より、パタピヤマニラ、ラングーン、スラバヤ西貢、河内、盤谷、ベナン、クワランブル等で、東京放送を受

號 十 六 第
月 九 年 七 十 和 昭
行 發 日 十 一 回 一 月 十
行 發 日 十 一 回 一 月 十
錢 五 部 一 價 定 一
錢 十 六 (共 發) 分 年
一 才 田 杉 編 修 行 發
一 才 田 杉 編 修 行 發
國 公 谷 北 日 區 町 總 市 京 東
社 信 通 盟 同 所 行 發

信し、日文通信の發行を開始して居るのみならず、昭南、パタピヤマニラ、クワランブル、ベナン、盤谷等では東京英文放送による英文通信をも發行して、各現地に於ける土語、馬來語、華語、インド各語の諸新聞の發行に便宜を與へて居り、更に河内、西貢では佛文通信、昭南では華文通信、盤谷ではタイ語通信、パタピヤでは馬來語通信すら、日日發行しつつある活動振りを示して居る。

一口に通信の發行といふが、暑い南方の現地でガリ版を書く記者の苦勞だけは察してもらはねばならぬ。一應の裁定成れば、それと共に當然從軍報道の昂奮も薄らぐ。一、二時間ぶつとほしに原稿を書けば、机に密着する腕一面は立ち所に汗疹ができるといふ暑さと湿度の中で、全便放送をとるオペの頭張りもさることながら、朝から夜半までぶつ通しのガリ版書きの汗脚は同志同僚として、全く同情と尊敬に値する。

思想戦の中樞機關

然し、南方の思想戦に關して、同盟が當然爲すべき任務の性質と規模とを考へて見ると、現在同盟が南方現地に於いて爲しつつあるところのものは、本來爲すべきことの半分にも、否三分の一にも達して居ないのである。

同盟が本來爲すべきことは、同盟が南方の思想戦の中樞機關としての任務を完全に遂行することである。思想戦を口にするものは、普通直に、新聞を發行したり、放送局を設置することを考へる。しかし、現地の新聞は、如何にしてニューズを蒐め得るか、放送局また如何にしてニューズを入手するかに思ひ到るものは極めて少い。新聞社や放送局の背後に、通信社の十分なる活動がなければ、新聞も放送も殆ど出来ないものである。新聞に就いていへば、假に、朝日がジャワを、日日が比島を、そして讀賣がビルマを引受け、夫々の現地の新聞を刊行するとしても、例へば朝日經營のパタピヤの新聞は同盟に依存しなければニューズが蒐められないのである。パタピヤの新聞を特電のみを以て埋めやうなどといふ考へは、單なるもの數奇にすぎず、賢明なる朝日幹部は特電を最少限度に止めて、大部分のニューズは同盟依存といふ方針を必ず採用するであらう。その場合、現在のままの同盟の機構を以てすれば、如何なる結果となるであらうか。パタピヤの同盟支局は、東京放送の全便四千八百語をとつて毎日通信を發行して居るこれだけは朝日のパタピヤ新聞も直に、全部印刷掲載出来るものである。然しその他に何があるか、ただだか、現地軍の發表ものとパタピヤ市内の社會種二、三件に過ぎない。して見るとその新聞はジャワ全島の新聞たる香も薄れれば、ジャワ島周邊乃至隣接地區たるマレー、スマトラ、ボルネオ、セレベス等の現地の動きについて殆んど傳へるところがないわけである。

南方ニューズの交流

かかる事情は、現地に原住民啓發のための放送局をつくる場合でも同様である。原住民に東京放送を中繼して聴かせてやつても喜ばない。原住民は彼等の生活に即したニューズが欲しいのである。彼等の喜ぶニューズを通じてこそ、是じめて啓發宣傳の目的が達成されるのである。しかも、かかるニューズは、放送局自體では取材できず、これまた通信社に依存せねばならぬ。

一言以つてこれを蔽へば、南方各地ニューズの交流を實現することである。このニューズ交流こそすべての啓發宣傳機構の中心である。従つて昭南よりの電信放送を受信する現地支局は、その受信にも、そのガリ版化にも、必然現在の二倍もの努力が要請されねばならない。(次頁へ續く)

本社各局再移轉

去る一月銀座から日比谷へ移轉した本社各局は八月下旬から九月中旬へかけて再び移轉をはじめた。編輯、通信、經濟の各局は市政會館一階へ部屋替へを行ひ、調査部は銀座の電通ビル六階へ引越した。

家族手當規定改正

九月一日より妻子手當規定を左のごとく改正實施された。改正の要點は受給者の俸給制限を撤廢したることと子女の年齢十五歳を數へ

ばならぬことはいふまでもない。そこで、東京への打電は暫く論外として、南方の同盟が現地で爲さねばならぬことが略ぼ明瞭となつて来る。即ち、現地の新聞及び放送局に對して、東京放送のほか、南方各地のニューズを蒐集してこれを配給するの勞をとらねばならない。邦語だけでない。土語及び所要の第三國語で通信を發行する必要がある。これらのニューズを蒐集するためには、現在の南方支局十三といふ通信網を擴張して、二倍以上にする必要があらうし、更に約三十ヶ所に通信員を置かねばならぬであらう。かくして約六十ヶ所から蒐るニューズを南方總局に集め、南方總局より南方各地向けの電信放送によつて再放送することとなる。

- 一、職員(社員、準社員、雇員並に之に準ずる嘱託を含む)に對し妻子手當を支給す。
- 二、妻子手當は妻に對し月額金五圓子女一人に付月額金五圓とす。
- 三、手當の支給を受くべき妻子は同一世帯にあり、且現に扶養しつつある者にして子女は年齢十九歳(數へ年)以下の者に限る。
- 四、本規程は試用中の者並に外國人職員には適用せず。

新聞記者練成大會に参加して

大阪支社

武 田 文 男

『新聞記者の練成とは體裁のいい暑中休暇ですか』
と他人からも聞かれ、また自分もこの程度の希望の豫測をもつて第一回新聞記者長期練成大會に参加したのは七月二十日であつた。それから夏も過ぎ、秋を迎へて早や一ヶ月が経過したが、さてこの一ヶ月間において、果してどんな風に練成され、また如何なる程度に効果を體得し得たであらうか。

第一期(七月二十一日より八月七日まで)長野縣諏訪郡原村農村更生協會中央修練農場、第二期(八月八日より九月六日)川崎市高津町津田山修練道場、第三期(九月七日より同二十六日)三島市龍澤

寺の順序である。しかし第一期の練成においては、大體次のやうな日課が組まれてゐた。

午前四時三十分 起床
五時 禮拜、體操後作業
七時 朝食
八時三十分 作業
十一時三十分 作業終了
正午 中食
午後二時 作業開始
六時三十分 作業終了
七時 夕食
八時三十分 禮拜
九時 就寢

右のうち午前、午後の作業は主として農耕作業が中心で都合により講義と懇談會に割愛された。

まず、この點に關しては、小規模ながら最近日本新聞會が中心となり、信州八ッ岳修練農場に實踐訓練をはじめました。私は八月四日に八ッ岳の農場へ行つて、全国各地から集つた新聞人諸君がこの鍛鍊に従事してゐるのを見て感概を深うしたのであります。

八ッ岳の練成所には各地方の農學校を出た所謂農村の指導者を訓練する長期修練生と一緒に各官廳の役人、學生、新聞人などが一丸となつて汗を流して本當に農耕の勞苦を體驗しつゝあります。この姿をみて非常に喜びを禁じ得なかつたのであります。

彼等は朝四時半から先づ觀をやつて一日炎天の中で土を掘り、肥料を與へ、種を蒔き、收穫をあげるといふ勞働をやります。あらゆる年齢、階級を超越して一生懸命にやつてゐる姿は、これこそ眞に

そのものに對する批判の聲が聞かれるやうになつた。

『一體こんな練成はわれら新聞記者生活に如何なる連關を持つのか?』

『觀念的な日本主義の講義によつてわれらの頭に果してどれだけ止揚をみる事が出来るであらうか?』

『新聞會の練成計畫を自身に既に誤りがあるのではないか?』

『等々の根本的な諸問題にぶつかりながら遂にこれらの問題に對しては明適な解答を見出すことが出来ず第一期の練成を了して下山した。しかしいろいろの批判は別ものが練成前に比較して肉體的に強壯となつたことだけは否定出来なかつたのである。』

『……このことは入場當初僅か二キロ程度の駈足で落伍した連中が退場近頃には四キロの駈足が續いたのである。』

『……したがつて批判の結果、實行するものと、實行を嫌ふものと、自ら區分され、自然歩調が揃はないといふことが現實の告白である。ではこれを是正し、これを嚮導して歩調を合はせるには一體どうしたらいいのであらうか。』

『……三十年間の教育によつて注ぎ込まれたわれらの思想や、思索方法を僅か七十日程度の練成によつて叩き直すといふことは不可能であるかも知れない。しかしこの練成によつて、その契機を作るといふことは可能であらうと思ふ。』

『……以上は練成一ヶ月の體驗から得た愚見の一端であり、何かの參考となれば幸甚のいたりである。』

なほわが社より参加された上村、林瀬兩兄はますます元氣いっぱい、着々練成の實をあげられつつあれば御安心を乞ふ。

社長訓示

(前頁より續く)

斯様

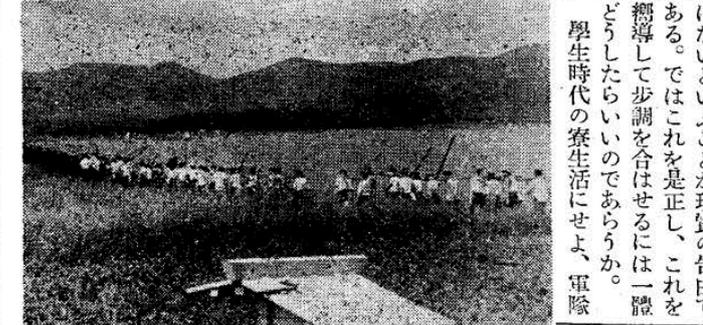
にわれわれの新聞分野においても、新しい態勢にもつて、その國家の公器たる機能を發揮するやうに、それぞれの仕組が進行しつゝあるのであります。しかしそれを生かすも、殺すも結局その仕事に携はる新聞人の面魂一つ、これによつていろいろの組織や仕組が變革されても、これを本當にその眞精神を把握して、そして運営する人間が出来なければ、すべての組織すべての仕組は結局机上の空論に終つてしまふのであります。そこで新聞人の面魂の叩き替へが當然問題になつてくるのであり

日本本然の姿がここに生み出されたのだといふ感じで、感慨深いものがあつたのであります。

同盟

から上村、林瀬、武田の三君を送つておますが、全く一介の農夫と同じ立場に立つて、午前四時半に大鼓の音に呼び起されて、眞黒になつて汗と泥にまみれて一日働いてゐるのであります。實にかうした企ては日本の新聞歴史に曾つてなかつた事實ではありませんか。

あらゆる困難に耐へ、あらゆる苦痛を忍んで、遂にはあらゆる勞苦、あらゆる勤勞を喜び勇んで働きたい。この面魂——記者が米を煮ること、菜ツ葉を植ゑる方法を覚えたところ、一向これらは仕事の上で直接役にも立ちそうにも思へませんが、しかしそれはたださうした技術や小手先ではないのであります。



續出来るやうになり、また午前中の作業に倒れたものが午前、午後の作業に堪へ得るやうになつたことによつて明かに證明される。かうして心身の練り直しのうち、身の一部に對しては二、三の落伍者を除いて大部分のものに練成効果の一片を見出すことが出来るのであるが、心々の部分に就いてはどうであらうか。

『……もちろん残された四十日間の練成はこの點に主眼がおかれて遂行されることであらう。しかしわれらが朝夕、唱和してゐる『吾等新聞記者は報道報國の誠をいたし、大東亞建設の聖業に挺身し、誓つて 天皇陛下の大御心を安んじ奉らんことを期す』との誓ひが、本當に腹の底から唱へ得るやうになるまでには、まだ相當の練成を必要とするだらう。』

